



東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部
The University of Tokyo Graduate School of Arts and Sciences, College of Arts and Sciences

事例紹介セッション1

東京大学教養学部・前期課程における コロナ禍への対応

東京大学

大学院総合文化研究科・教養学部(駒場)

研究科長・学部長補佐

角野浩史

2020. 12. 11 日本学生支援機構

令和2年度 学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー

3月11日に講義オンライン化タスクフォース(学部長室、事務部各課、教務委員、情報ネットワーク室、学生相談所、図書館)を組織し、日夜あらゆる対策を議論した。

オンライン授業の開始に向けて

東京大学教養学部(前期課程)の事情

- 学部1・2年生の全員、約6600人が駒場キャンパスで教養教育を学ぶ。
- 2年Sセメスター(春学期)の終了時に、専門課程(後期課程)で進学する学部を選択する(進学選択)。
- 進学先の学部定員を超える人数の希望が集中した場合は、2年Sセメスターまでの成績をもとに進学の可否が決まる。
- 2年Aセメスター(秋学期)からは進学先の学部が出講する科目を履修する。
- 進学選択にかかる事務処理等のため、授業日程の変更は極めて難しい。
- 2020Sセメスター開始までには日本に戻ることはできない、あるいは戻ってもすぐに登校できない留学生や外国人教員が多数在籍している。
- 1時限105分、間の休み時間は10分(昼休みは50分)の時間割で、キャンパス内のWi-Fi環境も未整備であったため、対面/オンライン授業の混在は不可能。

⇒ 学事暦どおり、4月6日からの全面オンライン授業が最適解

2020Sセメスター開始までの準備

	方針決定・イベント	学生支援
3/18	授業のオンライン化を決定 1・2週目のみ、学籍番号の奇数・偶数別の 対面授業とする	生協にPC等の在庫・入荷見込み の確認 貸出用PC・タブレット端末の確保
3/19	新入生・在校生とそのご家族へのメッセージ 発出	
3/24～		PC・タブレット端末貸出希望受付
3/27	1・2週目は休講/Zoom講習会に変更	
3/28	Web学務システムによるPC・ネット環境 アンケート	
3/30～4/2	学生証交付	PC・タブレット端末貸出
4/1～		モバイルWi-Fiルーター貸出希望 受付
4/6～	セメスター開始	
4/7	東京都緊急事態宣言	
4/13～19		昼休みZoom講習会
4/14～		モバイルWi-Fiルーター発送
4/20	3週目・全面オンライン授業開始	

新入生・在校生とそのご家族へのメッセージ

(3/19 太田学部長)

「・・・私たちの基本的姿勢は、どのような状況になっても、皆さんにできる限りこれまでと同様の教育を届けたいというものです。教育者として、皆さんの健康を第一に考えながらも、若者が被る教育面での損失を最小限に留める、感染症対策のために**教育から取り残される者が一人もないようにする**、そのために何ができるか考えて参りました。

その結果、授業開始時期を遅延させても、対面型の通常授業だけでは対応ができないと判断いたしました。そこで、東京大学創設以来初めて、教養学部・総合文化研究科におけるオンライン授業の大規模な導入を行うことにいたしました。」

「・・・まずお願いしたいことは、授業開始前にパソコン(できればカメラやマイクがついているもの。入手が難しい場合にはタブレット端末などでもよいです)と自宅のネット環境を整備しておいてもらうことです。・・・(中略)・・・**パソコン(またはタブレット端末)・ネット環境の準備が不可能な方は、学生支援課までご相談をお願いいたします**。追って対応策をお伝えいたします。」

PC・ネット環境の支援

- Web学務システムを用いたPC・ネット環境アンケート
(対象6600人、回答率53%)

	ネット環境なし/ 分からない	スマートフォンの テザリングのみ	計	自分の学習用 PCがない
割合	5.8%	1.9	7.7%	0.4~1.2%
推定人数	380人	130人	510人	30~80人

- 「オンライン講義受講環境に関する相談フォーム」で申込受付
フォームへの入力内容から生成したリストから自動で発送伝票作成
- PC・モバイルWi-Fiルーターの
準備数と貸出数

	PC	Wi-Fi
準備数	180	200
貸出数	100	166

PC	手配: 学部長室 提供: 研究科内の各教育部門 生産技術研究所 管理: 学生支援課
Wi-Fi	手配: 本部情報戦略課 管理: 学生支援課 発送: 学生支援課、学部長室

4月6日の Semester 開始日は、Web学務システムがアクセス集中のため繋がらなくなるなどの問題が発生した。しかし2週間かけて問題は解消され、4月20日のオンライン授業の開始までに教員・学生ともに準備が整った。

オンライン授業の問題

セメスター開始後のフォロー

情報提供

[学部] 教養学部ウェブサイト

[教務課・学生支援課] 教務・学生生活特設サイト

[学部長室] 講義オンライン化に関する情報サイト(日本語・英語)

[学生自治団体] オリエンテーション委員会による特設ウェブサイト、
部・サークルのZoomオリエンテーション



東京大学 教養学部・大学院総合文化研究科
講義オンライン化に関する情報サイト
Department of Arts and Sciences
Graduate School of Arts and Sciences
Resources for online lectures

ステージ・レッド
Stage Red

学生支援のためのアンテナ

[教員] 必修科目の担当者は心配な学生を報告

[教務課・学生支援課] 学務システムにログインしていない学生に個別連絡、
「オンライン講義受講環境に関する相談フォーム」開設

[学生自治団体] オリエンテーション委員会によるクラスLINE作成

[学生] クラスLINEなどで連絡が取れない学生のフォロー・報告、
オンライン講義の問題点を報告

学生向け情報

English

お問い合わせ/Contact us

学生有志による参考資料

オンライン講義受講環境に関する相談フォー
ーム [2020年度Sセメスター]

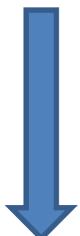
教養学部・総合文化研究科のオンライン講義の受講環境に関する相談は、こちらのフォームからお願いします。

教員から報告のあった学生への対応

- [(主に)必修科目担当教員]
欠席や課題未提出など心配な学生をフォームで報告



- [学部長室]
複数科目から報告がある



- [学生支援課]
学生にメール・電話で連絡

必修科目で欠席が続く



初年次ゼミ(1年必修の少人数グループ
実習科目)担当教員に問合せ



学生状況の報告/Reporting students' status

初回から欠席しているなど、オンライン授業受講に不安のある学生についてご報告ください。
If you find a student who is absent from the beginning or with other concern for online learning, please report him/her to us.

先生の姓/Your family name	先生の名/Your given name
E-mail	科目名/Your class
学生名と学籍番号、気になる点をお書きください/Write down your student name and ID, and what you are concerned with	
報告する/Report	

科目	件数(延べ)	対応数(延べ)
外国語	69	25
外国語グループ演習	25	21
初年次ゼミ	18	14
自然科学	34	6
身体運動実習	2	2
計	148	68

学生からの回答	学生数
オンライン受講トラブル	9
体調不良	4
休学・退学・留学	4
履修間違い	6
体調・ネットワーク問題なし	14
オンライン授業疲れ	5
不明	4
計	46

駒場学生相談所での対応



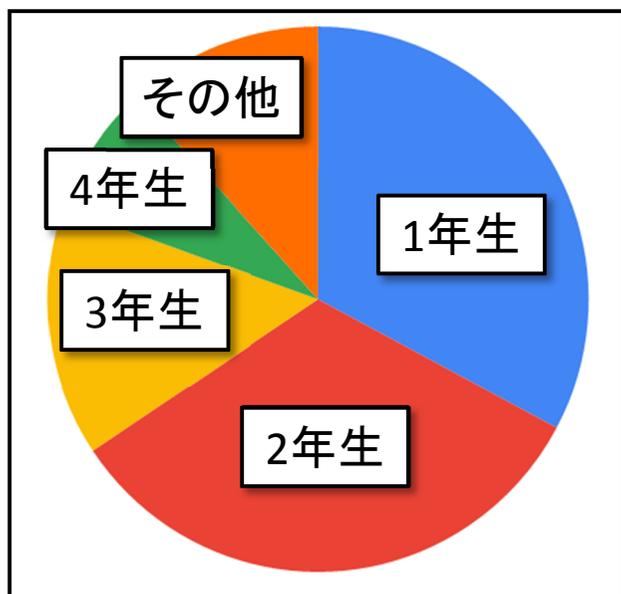
- 4月～5月 [延べ相談回数：487回]
 - 相談所スタッフも在宅勤務となり、メール相談のみで対応
 - 相談内容・相談員所感：
 - オンライン授業によってもたらされる孤立感や疎外感。
 - オンライン授業という特殊状況を心配した親からの連絡・相談。
 - 社会における様々な行動制限によるストレスの蓄積。
 - 在宅勤務によるメール相談では限界があった。
- 6月～7月 [延べ相談回数：599回]
 - 相談所スタッフも出勤再開
電話相談を中心にメール相談、対面相談にて対応
 - 相談内容・相談員所感：
 - 自粛生活が長引くことによる心身の疲労の増加。
 - キャンパスの入構規制が緩和されても学生は引き続きオンライン授業を受けていたことから、状況にほとんど変化なし。
 - 電話相談・対面相談に移行したことで学生対応の幅が広がった。
学生支援課や保健センター・精神科等との連携により、学生への支援がより迅速化した。

学生相談所ダイバーシティ&インクルージョン部門における 学生交流プログラム

●Sセメスター

「Zoomでしゃべランチ」、「Zoomで教授としゃべランチ」
など、オンライン交流プログラムを実施。

4/21～7/8の13回、延べ184名の学生が参加。



学生の関心が得られるような
ロゴやポスターを作成、運営
学生らと協働的に企画を創案。



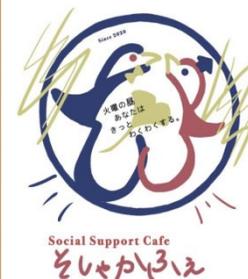
第1回Zoomでしゃべランチ告知用ポスター



第1回そしゃかふえの様子
(参加者の同意を得て掲載)

●Aセメスター

学内におけるソーシャルサ
ポート普及のため、「そしゃか
ふえ(ソーシャルサポートカ
フェ)」と改名したオンライン交
流プログラムを実施中。



オンライン授業・課題疲れ

- 前期課程学生の履修コマ数は約15コマ/週。
⇒ 1日平均3コマ、5時間はPCの前に座り続ける。
- 学期末試験が従来どおり対面でできるか、オンライン試験がどれだけ公正にできるか不明。
- 進学選択のためには、一点刻みの評価をしなければならない。
⇒ 授業ごとの課題(レポート)による分散評価をする科目が増加。
- クラスメイトと話す機会が限られ、放課後等に教室で課題と一緒に取り組むこともできない。
- 部・サークル等の先輩にも様子を聞けない。
- 3月まで宿題は全てやる、よい点を取ることが当たり前の高校生だった一年生は、手の抜き方が分からない。
⇒ 学生が課題に押しつぶされる。
(平均して毎日1科目以上で課題が出されていた)

- 学生から課題軽減、授業時間の使い方の見直しの陳情
- 実家でオンライン受講の様子を見た親からの陳情
- 学生アンケート(学部、生協、学生有志がそれぞれ実施)でも同様のコメント多数

⇒ 教授会で全教員に課題軽減を依頼

Sセメスターを開始して間もなく、一年生を中心に対面授業を切望する声が、アンケートやSNS等で顕在化した。オンライン授業の問題の解決のためにもAセメスターでの対面授業が必要と判断し、5月下旬から準備を開始した。

対面/オンラインのハイブリッド授業の実現

対面授業とする科目の選択

- 時間割は長年熟成され、微妙なバランスで成り立っている
→ 時間割変更は不可
- 登校人数の事前把握が必要
→ 選択科目は不可
- 対面での教育効果が重要
→ 語学、実験実習、身体運動実習が対象
- 初修外国語(英語以外の外国語)の30人~40人クラスで管理
→ コロナ対策定員で使える教室数は従来の5割弱
- 曜日ごとに人数を均等に
→ 英語系科目は数が多く、履修人数のバラツキが大きいため無理
- 実習科目でソーシャルディスタンスを確保
→ 隔週対面とし、対面実施の実験・実習種目を絞る

対象:1年生3300人

○		○		○
	○		○	
○		○		○

コロナ対策の座席配置

【隔週対面】

初修外国語、身体運動実習、文系の選択必修の初修外国語演習

【隔週もしくは科目によって定めた週で対面】

理系学生の必修の実験実習(物理・化学)

【毎週オンライン】

その他の全ての授業

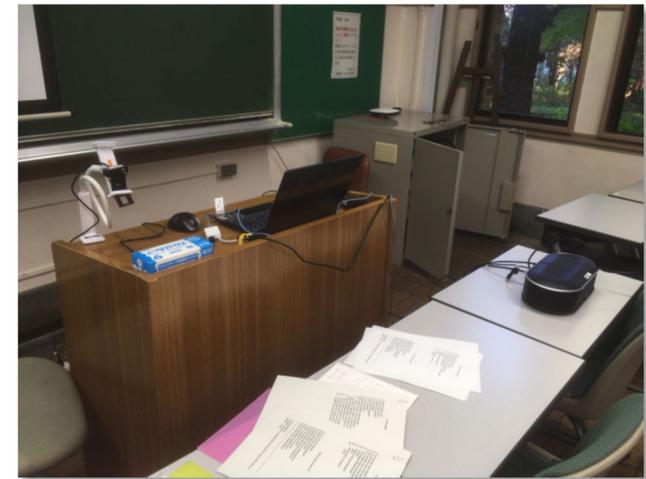
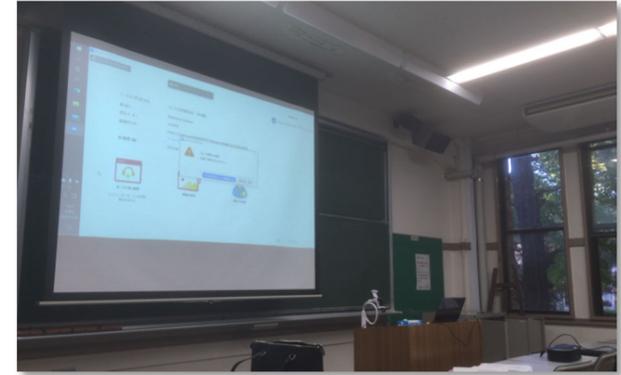
ハイブリッド授業でクリアすべき課題

- 基礎疾患がある、あるいは遠隔地にいる学生・教員のために、オンラインで授業を受ける/することができる環境も必要。
- オンライン受講する学生を取り残さない。
 - オンライン講義同時配信(ハイフレックス)環境の整備
- 対面授業出席のために登校した学生が、キャンパス内で他のオンライン授業を受けられるようにする。
 - Wi-Fi環境・給電設備の改善
 - PC充電ロッカーの導入
- 感染拡大防止策を徹底する。
 - パーティション、消毒液、ゴミ箱や手洗い場などの設置
 - 入構・健康管理システムの導入
 - 専門家による教室・実習場所のリスク調査と指導
 - 室内換気設備・網戸の整備
 - 接触者確認アプリCOCOA等のインストール推奨
 - 混雑度モニタリングシステムの展開



ハイフレックス授業の様子

- 20～40人の外国語クラス中、0～3人がオンライン
- 教室内の学生の声はスピーカーと一体の集音マイク(マイクスピーカーシステム)で集音
- オンライン学生の声は上記スピーカーから教室内に拡声
- 教員はハンドマイクを使用
- カメラは教室内の学生に向ける
or 教員を遠くから撮影
- 2～3人のグループワーク(会話練習)
 - 2人以上オンライン学生がいる場合:
ブレイクアウトセッションに入れる
 - 1人しかオンライン学生がいない場合:
教室内の学生がZoomに入る
- **画面切り替え時には常にオンライン学生に確認**
- **オンライン学生にも発言してもらえよう声をかける**
 - 頻度過多に注意
 - 授業の始めと終わりに学生間で挨拶させるのもよい



対面授業を続けるために

- 感染時に備えて入構と健康状態を管理・記録
 - 手軽に入構/健康管理報告/施設予約を申請
 - 申請確認メールを身分証とともに入構時に確認

→ Web予約管理システムを利用

- 「密」を避けるための混雑状況モニタリング

- COCOAのBluetooth信号
- 教室ビーコンの信号を専用アプリで通知
- Wi-Fi接続数

→ 教室の利用状況の把握(学部)
電源/Wi-Fi空き状況の把握(学生)

- 感染拡大防止策の徹底

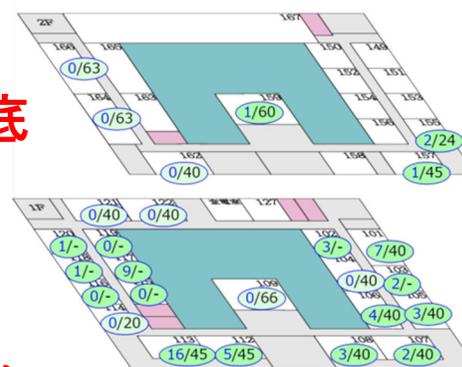
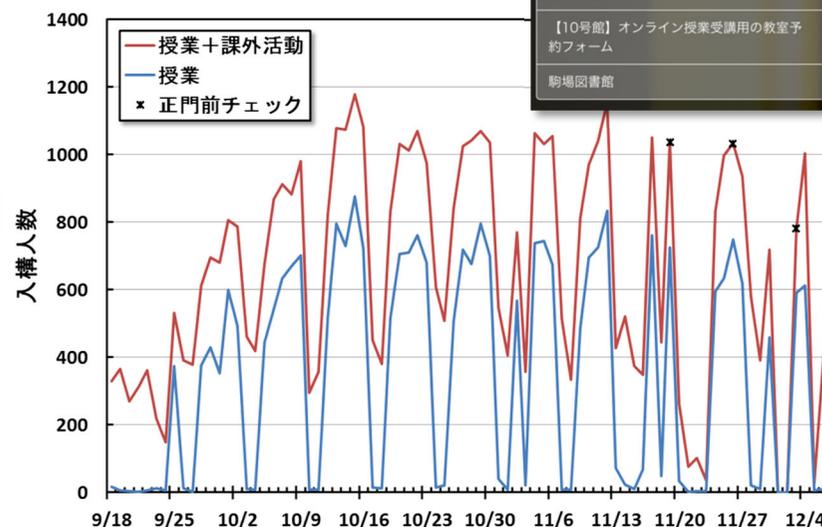
- マスク着用
- ソーシャルディスタンス
- 節度のある教室利用、友人との交流

→ 学部長メッセージ発信、教室掲示の徹底

- 感染者・濃厚接触者発生時の対応

- 感染を拡大させない
- 当該学生を詮索・中傷・糾弾させない

→ 正しい知識と正確な情報を速やかに周知



マスク

またはフェイスシールド
必ず着用!

座席は一つおきに使用し
ソーシャルディスタンスを
保ってください。

厚生労働省の接触確認アプリ「COCOA」を
スマートフォンにインストールしてください。
(個人情報は一切取得されません)
COCOAのインストールはこちら↓

App Store Google Play

東京大学教養学部・総合文化研究科

まとめ：これまでとこれから

- 東京大学教養学部・前期課程では、学生・教員の健康を第一に考えつつ、6600人の**学生を1人も取り残さず、教育の歩みを止めない**ことを目指した取り組みを続けている。
- 急展開を見せたコロナ禍に対応するには、**学部長室と事務職員、授業担当教員が密に連携しつつ、考え得る限りのあらゆる対策を、スピード感をもって実行に移す**ことが不可欠であった。
- 対面授業のために**大学に来ている学生たちは、本当に楽しそう**。

【参照】学生オンラインメディア「Umeet」の記事(2020.12.9)

「対面授業が始まった駒場キャンパスで、新入生に突撃インタビューしてみた」

<https://today-umeeet.com/article/57449>

- コロナ禍での大多数の学生への**最大の支援は、対面授業を続けること**と思われる。
- **オンラインで授業を受けざるを得ない少数の学生のケアは必要**。
- 対面とオンラインのハイブリッド授業という**新たな学生生活の中で、また別の形で学生は悩みを抱えている可能性がある**。
それを早期に拾い上げ、対応していかなければならない。